

著作権保護コンテンツ

海外の
ロングセラー

『こねこのぴっち』

文・絵／ハンス・フィッシャー
訳／石井桃子 1,500円(岩波書店)
※子どもの本版800円もあり

ぴっちは、きょうだいネコとは違うことに興味を持っています。ニワトリのマネをしたり、ほかの動物になろうとチャレンジしますが、うまくいきません。ある日、ぴっちは重い病気になってしまいます。



『ねこのオーランドー たのしい日々』

作／キャスリーン・ヘイル 訳／こみやゆう 1,600円(好学社)
マーマレード色のオーランドーは、3匹の子どもたちを学校にやることにしました。でも、3匹は学校へ行きながら、あの手この手でサボります。仕方なく学校はあきらめて、何が芸術を習わせようと考えました。



『アンガスとねこ』

作・絵／マージョリー・フラック
訳／瀬田貞二 1,100円(福音館書店)

スコッチテリアのアンガスは大人になるにつれて、いろいろなことを覚えました。でもまだよく知らないものがあります。それはときどき出会うネコ。アンガスはネコのことを知りたくて仕方ありません。



『100まんびきのねこ』

文・絵／ワnda・ガアグ 訳／いしいももこ
1,000円(福音館書店)

「寂しいからネコを飼いましょう」と言うおばあさん。そこで、1匹のネコを求めて探しに出るおじいさんですが、たくさんの中から選べずに、1兆匹のネコを連れ帰るのですが、シュールな結末が待っています。



『10びきのいたずらねこ』

文／メンシエ・ファン・キューレン
絵／ヤン・ユッテ 訳／野坂悦子
1,100円(朝北社)

10匹のいたずらネコが、1匹かぜをひいて残るは9匹に。9匹のいたずらネコがネズミを捕まえにいったら、1匹はしっぽにじゃれついて残るは8匹に。1匹ずつ減っていく数え歌です。

昔話を子どもに

今日でもなお、子どもたちの幸せは、
何ととっても、愛し、信頼する人の口から、
メルヒェン（昔話）を語ってもらうことにあります！

—シャルロット・ルジュモン^{*1}

昔話が子どもに 心に働きかける力

昔話は、いつとも知れぬ昔から、だれともわからぬ無数の人々によって、今日まで伝えられてきた物語です。これらの物語を伝えたのは、ほとんどが文字を知らぬ人々でした。書き記されたものによらず、語り、聞くことで、昔話は生きながらえてきたのです。世界中どこでも、人々はたき火のまわりで、炉辺で、あるいは樹の下で、街角で、語り手の語る物語に聞き入りました。語りは何世紀にもわたって、教育と娯楽の主な手段だったのです。近代化にともなって、生活の場での語りの習慣は失われ、幼い日に耳に蓄えた物語を、年を重ねてからそのまま語ることもできる、伝承の語り手も急速に姿を消しつつあります。

今から百二十年余り前、明治二十年代に、岩手にひとりの語り上手の爺さまがいて、溺愛している孫娘に、毎日昔話を語って聞かせていました。孫娘は、継子いびりの「お月お星」に涙し、「尻っこき嫁」に笑い転げました。浴びるほど昔話を聞いて育った娘は、長じて学校の先生になり、戦後の農村で、女性の地位向上と生活改善運動に大きな足跡を残します。この人、伊藤書き『まつを媪おばあ百歳を生きる力』^{*2}には、昔話が子どもの心に働きかける力についての強力な証言があります。

八十歳をすぎたまつをは、爺おやが「おれの心つくるのに、一番影響があったの、あの爺様だったべ、三つ子の魂を育てたの。自分で理屈をつけて本を読むまでは、おれの心、爺様の昔話が支配していたんじゃないの。……口から伝えられた話には愛情があったよ。人間の口から、愛情を直接吹き込まれたんだもの」と、語っています。

身体に入ってきて、 バウンドする力

そして、昔話を聞いて育って、何がよかったかと聞かれて、しばらく考えた末、それは、何か問題が起きたとき、それを心に受け止めて「ふぁーんとバウンドする」力ではないか、と答えました。「何かが自分の身体に入ってきてバウンドする。その温床が何かといえ、それが昔話でないかって……昔話を聞きながら、心が広がるくらい広がってしまったんじゃないか。いまままだよ、モウロクしないで包容する力があるっていうのは、このバウンドする力でないか……その力が、いつできたかと考えると、小さいときの昔話だと思わない」と。

バウンドする力——なんと意味深い表現でしょう。それは想像力であり、包容力であり、柔軟性でも、忍耐力でもある。思慮深さ、交渉ごとにおける調整能力も含まれるでしょうし、困難をはねかえす気力でもある。懐の深さは、人間的な温かみや、思いやりにも通じます。

しかし、それは昔話に限らず、すぐれた文学がすべてもっている力ではないだろうか、と思う方もあるでしょう。たしかにその通りです。が、昔話は、素朴な人々のあいだで、長く語りつがれてきたことよって磨きあげられた独特の様式があり、それが昔話をとくに子どもに文学に適したものであるのです。

『ことわざしょうてんがい』

作/かんべあやこ
1,300円(あかね書房)

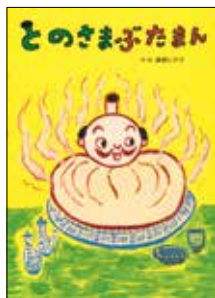
はなちゃんが起きてみると「へーのかっぱ へのかっぱ」とカッパがいました。カッパと一緒に家族で商店街のセールに行くことになりました。「金は天下の回り物」「笑う門には福来たる」など、ことわざ大集合!です。



『とのさまぶたまん』

作/絵/長野ヒデ子
1,300円(あすなろ書房)

おやつが待ち遠しくてたまらないとのさま。リクエストにこたえて、今日はぶたまん作りです。とのさまもエプロンをつけて、やる気満々。しっちゃんかめつちやかなぶたまん作り、おいしいぶたまんはできるでしょうか。



『ぼんぼんぼん』

文/うしろよしあき
絵/まるやまあやこ
850円(あすなろ書房)

「ぼ〜ん ぼ〜ん ぼんぼんぼん」。お母さんにお父さん、おばあちゃんにおじいちゃんが手振りをつけて、いっぱい笑顔で赤ちゃんをあやします。赤ちゃんは、手足をばたばたさせて、にっこにこです。



『おいで おいで』

作/ふくだしょう、中川ひろたか
絵/かめざわゆうや
900円(赤ちゃんとママ社)

「おいで おいで このゆびとまれ!」と男の子が指を立てたら、長い耳が見えました。ウサギさんです。今度は縄跳びしようと、ウサギさんが「おいで おいで このみもとまれ!」と呼びました。



『すずめのまる』

絵/箕輪義隆
文/かんちくたかこ
1,500円(アリス館)

まるは、とても元気なスズメの女の子。はじめて飛ぶのは、ちょっと怖い。けれど、まるは「いちにのさん、えい! ジャンプ!」とがんばります。まるの成長を通して、スズメたちの一年をのぞいてみましょう。



『おなじ だあれ?』

作/しもかわらゆみ
1,300円(あかね書房)

ふたつの穴からのぞいている、よく似ている小さなおては誰のものでしょう? ネズミさんとハリネズミさんです。ではこのきらきらおめめは? 長いおみみは? 動物たちの「同じ」をあてっこ遊びしてみましょう。



『はやくちことばのさんぼみち』

文/平田昌広
絵/広野多珂子
1,400円(アリス館)

ふみちゃんがお父さんと散歩する道は、草花や生きものがいっぱいです。ふたりは、見つけた花や生きものたちの様子を、早口言葉にして覚えていきます。大きな声で、連続3回! はる、なつ、あき、ふゆ、早口言葉の散歩は続きます。



『キャベツちゃんのワンピース』

作/東直子
絵/わたべめぐみ
1,800円(あかね書房)

お母さんが、ダンスの奥からキャベツ模様のワンピースを見つけました。1歳のまりこちゃんに着せてみると、急に立ち上がって歩きだし、おしゃべりまでしたのです。そして、そのワンピースしか着なくなりました。



もう
読んだ?
新刊
100!!

2020年3~5月に発売された新刊絵本の中から、読みきかせにもおすすめの100冊を選びました。子どもたちとすてきな時間を過ごしてください。

※出版社五十音順

👶 マークは乳幼児から、👧👦 は中・高校生も楽しめる本です。

定期購読者限定プレゼント🎁

新刊絵本プレゼントの詳細は、このページの下欄をご覧ください。

※ JPIC 直販の定期購読の方に、抽選で新刊絵本100冊から1冊をプレゼントします。巻末のアンケートハガキまたはホームページのアンケートフォームから応募してください。

今、さまざまな
現場で
SDGsが熱い!

子どもたちの未来と SDGs絵本

SDGs (エス・ディー・ジーズ、Sustainable Development Goals の略) とは、“全世界の人たち”が、“持続的”に“人間らしく生きる”ために、国連が2030年の達成に向けて定めた、世界を変えるための17の目標のことです。この目標を、子どもたちや、そのまわりの大人たちと共有するために、絵本を使った活動が広がっています。今回は、JRAC*の谷口和恵さんに、実践されている取り組みについて伺いました。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGsを絵本講座に 取り入れて、伝える

最近SDGsのことをよく耳にしたり目にしたりするようになりました。そして持続可能な未来をつくるため、国連が2015年に採択した17のゴールのロゴは、どれも目を引きまします。それぞれのゴールのことが簡潔に記され、ピクトグラム(絵文字)は内容をよく表しています。

私自身は3年前にSDGsの取り組みを知り、その理念に大変共感しました。そこで絵本を使って17のゴールについて考えることができるのではないかと思い立ち、昨年より絵本講座の中で伝え始めました。

経済優先で自然が破壊され続け、悲鳴を上げている私たちの地球。貧困の中で学ぶ機会が奪われ労働を強いられる発展途上国の子どもたち。先進国の多くが化石燃料を使いCO₂を排出し続けることで引き起こされるさまざまな問題……。

今私たちを取り巻く環境は地球規模で考えると決していい方向には向かっていません。それらを打破できる取り組みがSDGs

にはあります。

絵本をどのように使っているかを私の講座から一例をご紹介します。

『世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ』。14年に出版されたこの本に出合ったとき衝撃を受けました。いきすぎた資本主義を憂い人間の真の幸せを追求するムヒカ大統領の姿勢は、17のゴール全般の構築にも大いに影響を与えたと思います。『マララの物語』では、すべての女の子に教育を受ける権利をと今なお精力的に活動を続けているマララさんの勇気に感銘を受けます(④⑤)。『風の島へようこそ』。デンマークのある島の取り組みでは化石燃料から自然エネルギーへと島民全員で転換していった経緯を知ることができます(⑦⑧⑨⑩)。『プラスチック星にはなりたくない!』。捨てられたプラスチックゴミを海鳥や魚が食べることによって大変な被害が及んでいきます。このままだと30年後には海に生きる全生物の数より浮遊するプラスチックの数が多くなることに脅威を覚えます(⑫⑭)。『おじいちゃんは水のおいがした』。琵琶湖周辺の里山での自然

*当財団(JPIC)では読書を通して国民の生涯学習推進・読書活動の推進のために、1993年より「JPIC 読書アドバイザー養成講座」を開設。読書や出版について体系的に学習する講座です。JPIC 読書アドバイザークラブ(JRAC)とはこの講座の修了生の有志により自主活動しているクラブ。全国に約660名が在籍、地域のおはなし会などで活躍しています。

連載
第46回

おはなしお婆さんの

おはなしの たねあかし

祝言の若いふたりを見てうらやましくなった翁と媪が仲よくしている。うらやましくなった鶴が、亀に「嫁にならねか?」と誘います。でも亀は首を横に振るばかり。そのわけは……。

イラスト／保坂あけみ



藤田 浩子

1937年東京生まれ。福島県三春町に疎開し、昔ばなしを聞いて育つ。幼児教育に携わりながらおはなしを語って60年。現在は西小岩幼稚園をはじめ、小学校や大学などでも小道具を使った楽しいおはなしを語り、大人向けの講演会のため全国を飛び回る毎日。

『つるかめ』

むがあし まずあったと。

あるところに たいそう お大尽だいじんの家あつてな

その家の一人息子が

嫁様 もらうことになつたんだと。

なにしろ お大尽の屋敷であるから

広い座敷に お膳おぜんすらあーと並べて

ほおで お客様

たあくさんよばるわけなんだけども

床の間には つるかめの置物

翁媪おきなおんなの人形 飾かざつてなあ

ほおで 床の間の前に

嫁様と嫁様と座つて ほおで

よばらつちや人達は

／そのずらあーと並んだお膳おぜんの所に座つて

まあ 飲んだり 食つたり

歌つたり 踊つたり

たいそう にぎやかなことであつたと。

ほおでまあ おふるまいが 終わつて

一人帰かへり 二人帰かへり しまいは

皆あお客様帰かへつてしまつて 床の間の前に

嫁様と嫁様と二人きりになつてしまつたと。

昔のことであつたからなあ 嫁様

その嫁様の顔 まあだ

ろくたま見てねかつたんだと

おらの嫁様 なじよつた顔してるかなあ

と思つて こおーして 綿帽子わたぼうしの下の顔

のぞつてみたらば まあ めんげえこと

めんげえこと それでまあ

すつかりうれしくなつちまつてな

「あね あね もう ほれ

だれもいねくなつたぞん ほおだに

離はなちつことねえ もうちつと

こつちやこらんしょ

と こうゆつたんだと。したれば嫁様

座蒲団ざぼたんの上さ 座まつたきり

「ほおだこと ゆつたつて おらあ

おしよしい(恥ずかしい)ども」

と 言いながら ちよこつと 嫁様の方さ

寄つて来たと。

プログラム(各10～15分) 小学校低学年

10月 テーマ: 秋はおいしい!

①「じゃがいもひめと さつまいもひめ」

作・絵/はらべこめがね 1,200円(鈴木出版)
食欲の秋です。学校で育てたり、いも掘りに行ったりと、身近なおいものおはなしから始めます。



②「どんぐりもりの おきゃくさん」

文/香山美子 写真/飯村茂樹ほか
品切れ中(ひさかたチャイルド)
どんぐりを食べに来たのは? 「これは、誰?」とクイズも楽しいです。どんぐりの種類について、実物や図鑑で触れてもいいですね。



③「ナミチカのきのこがり」

作/降矢なな 1,300円(童心社)
裏表紙の小さな秘密も忘れずに見せてあげてください。



11月 テーマ: 洋服記念日なんです

11月12日は洋服記念日。ということで、身につけるものつながりです。

①「うっかり おじさん」

作/エマ・ヴィルケ 訳/きたたいえりこ 1,500円(湖北社)
おしやれに支度をしているおじさん。やりとりしているような描き方がおもしろいですね。



②「おいしいぼうし」

作/シゲタサヤカ 1,100円(教育画劇)
帽子は帽子でも? プリンの長ゼリフは早くで読んでほしいかもしれません。



③「なんと! ようひんでん」

作/石川基子 1,400円(講談社)
洋品店という言葉を知らない子が多いかもしれないので、説明をしてから読んであげて。



12月 テーマ: 空をとぶ

①「ぶたがとぶ」

作/佐々木マキ 1,300円(絵本館)
最初に飛ぶのはブタです。なぜだか、いろいろなものが飛んできます。



②「シルクハットぞくは よなかの いちじに やってくる」

作/おくはらゆめ 1,333円(童心社)
シルクハットぞくも飛んできます。やってくるのは、夜中の1時です。



③「よるくま クリスマスのまえのよる」

作/酒井駒子 1,000円(白泉社)
夜中の1時といえば、イヴにはみんなのところにも飛んでくるかな? 最後は、子どもたちも楽しみなクリスマスのおはなしにつながります。



(石井澄子)



対象別おはなし会のプログラムです。
ここで紹介する絵本や紙芝居は、
ご家庭での読みきかせにもおすすめです。
ブックガイドとしても活用してください。

行事絵本・季節の絵本

月

『つきよのおんがくかい』

文/山下洋輔 絵/柚木沙弥郎
構成/秦 好史郎 1,200円(福音館書店)
満月を山のとっぺんで見ようとしたこうちゃん、クマとウマとネコとイヌが演奏する音楽会に出会い、一緒に楽しむことになりました。



紅葉

『おちぼひらひら』

写真/久保秀一 文/七尾 純
1,200円(偕成社)
ひとりて暮らし始めた、サワガニのちよきたんは、秋を知りません。どんなものなのか、岩の上で、待つことにしました。



紙芝居

『さといも ゆさゆさ』

脚本・絵/土田義晴
1,400円(童心社)
クマのクンクンとウサギのキキが遊んでいると、おじいちゃんが何か掘りだしています。それは里いも。どうやって食べるのかな? ゆさゆさするのは、何でしょう?



紙芝居

『どんぐりのあかちゃん』

脚本/島本一男 画/若山 憲
1,900円(童心社)
強い北風に揺すられて、スタジイの実が飛びだしました。ゆっくり眠るところを見つける、スタジイほうやの旅のはじまりです。



紙芝居

『こぎつねコンチのにわそうじ』

脚本/中川李枝子 絵/二俣英五郎
1,800円(童心社)
お母さんが、落ち葉を掃き集めているのを見たコンチは、「ほくにもやらせて」。竹ほうきを持たせてもらおうと、またがって動き始めました。



(安富ゆかり)

保育者のたまたまズノたちと絵本

幼稚園・保育園の先生は、絵本についてどう学んでいるのだろうか？

道灌山学園保育福祉専門学校保育部長の阿部恵先生に、学校での授業について伺いました。

学生たちへの授業で 絵本について教えること

私は、「保育内容の理解と方法Ⅱ」という授業のなかで、学生たちに絵本について伝えていきます。

まず、絵本とは、絵と文がともに響き合い、読者の感性に訴えてテーマを伝える本である、という定義から始めます。次に、絵本の種類には、市販絵本と保育絵本があると話します。市販絵本は、書店やネットで購入できる本で、上製本でカバーつきのもので多いです。一方、保育絵本は、月刊絵本ともいわれ、幼稚園や保育園で直販される絵本で、ペーパーバックのものが多いです。保育絵本は、日本固

有の文化財だという話もします。市販絵本と保育絵本は、どちらがすぐれているというのではなく、両方ともとても大事だと教えています。

次に、絵本の各部分の名称についても教えます。絵本の読みかかせをするときにも、絵本を選ぶときにも、知っておいたほうがいいからです。絵本の背表紙、見返し、小口、のど、裏表紙、天と地などの名称について解説します。

また、絵本のカバーや帯についても話します。カバーには、いろいろな情報を書いてあり、著者についてや、このシリーズにはどんな絵本があるかについてなどがわかります。帯にも、

作者の言葉が出ていたり、その絵本をひとこと言い表す言葉が出ていたりします。

また、学生がわりと意識していないのが「奥付」です。そこには、いつできた本なのか、どれくらい版を重ねてきたのかが書いてあります。自分が生まれる前からある本だったり、たくさん読まれている本だったりすることが、よくわかります。

次に、市販絵本の「読みかかせ」の仕方について学びます。読みかかせとは、子どもたちにとって身近な大人が、ひざの上で子どもに絵本を読んで聞かせているところをイメージしてできた言葉です。ですから、決し



阿部 恵 あべ・めぐむ

1953年、新潟県生まれ。道灌山学園保育福祉専門学校保育部長。絵本の楽しさを伝えながら、多くの保育者を育てている。パネルシアターやペープサートに関する書籍を多数執筆。